

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870301108		
法人名	株式会社 長寿館		
事業所名	グループホーム 永国長寿館		
所在地	茨城県土浦市永国1048-1 (電話) 029-823-1951		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】 (平成20年7月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.15人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 3階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年7月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	2名	要介護2	8名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.5 歳	最低	60 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑波病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは交通量の多い国道に面し付近にはレストランやマーケットが立ち並んでおり、利用者にとって便利な場所にある。  
利用者や家族の希望により地域のかかりつけ医に職員が送迎して受診することができるほか、運営推進会議の委員である協力医療機関から定期的な往診や看護師による夜間帯の巡回訪問があり、適切な医療体制を確立している。  
ボランティアグループとの交流も活発で、地域としっかり結びつき連携を図っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では管理者ばかりでなく全職員で課題への対応に取り組む体制整備が求められていたが、未達成の課題もあるので計画的に課題改善に取り組むことを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の課題への取り組みは管理者中心であり、外部評価の意義や目的を全職員が理解をするまでには至っていないので、その主旨を周知し全職員で課題に取り組む体制づくりが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は民生委員や区長、市職員、利用者及びその家族で構成し、2ヶ月に1回開催している。 会議では事業者から近況報告やボランティア受け入れについて、また、区長から市民運動会や廃品回収の参加について説明後話し合い、利用者のサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置していないが、利用契約書には苦情相談窓口担当者及び外部苦情申立機関について明記している。 家族会や運営推進会議時に意見や要望等の把握に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会に加入し地域の清掃活動などに参加するとともに、事業所の納涼祭に地域の人々を招待し交流している。 地域婦人部のボランティアグループと交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念の見直しはせず、開設時の基本理念「日常生活を通してゆっくり・楽しく・一緒に認め合える生活を築く」を掲げ支援している。	○	介護保険制度の改正により地域密着型サービスとして、地域社会のニーズに応じたサービスのあり方が求められていることから、理念の見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が基本理念を念頭におき、親切介護の精神で支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入し地域の清掃活動などに参加するとともに、事業所の納涼祭に地域の人々を招待し交流している。 地域婦人部のボランティアグループと交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の課題への取り組みは管理者中心であり、外部評価の意義や目的を全職員が理解するまでには至っていない。	○	外部評価の意義や目的を周知し、全職員で課題に取り組む体制づくりが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員や区長、市職員、利用者及びその家族10名で構成し2ヶ月に1回開催している。 会議では事業者から近況報告やボランティア受け入れについて、また、区長から市民運動会や廃品回収の参加について説明後話し合い、利用者のサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の困りごとなどについて、市の介護担当部署と相談し助言を得ている。 市社会福祉協議会からボランティアに関して協力を得ている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人発行の機関紙やホーム便りを送付するほか、家族の面会時に近況報告をしている。 利用者からの預かり金を管理し、使途状況は帳簿・領収証の写しを添えて定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していないが、苦情相談窓口担当者を利用契約書に明記している。 また、外部苦情申立機関も明記している。 家族会や運営推進会議時に意見や要望等の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定年退職以外の離職者はいない。 法人内異動の際は1ヶ月前から利用者支援を始め、利用者の不安が最小限に抑えられるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は協力医療機関で開催する介護交流会に出席し、介護の方法などを活かしているが、認知症介護に関する外部研修や内部研修が計画的に実施されていない。	○	認知症等に関する研修は全職員を対象に計画的に実施することが望まれる。 また、受講後はその内容を報告書により報告するなど、全職員で共有する体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会や市内のグループホーム連絡会に加入している。 2ヶ月に1回開催しているグループホーム連絡会には主に管理者が出席し、職員会議で情報などを報告している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による利用者の事前調査のほか病院等で面接を行い、よく話し合ってから利用を開始している。 家族等のホーム見学も自由に受け入れている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの趣味や特技などを把握し、日々の生活の中でそれらを活かした支援をしている。 テレビの料理番組などは職員と共に視聴して楽しむなど、学んだり支えあう温かい関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者のその日の希望にそって散歩や買い物、歯科医などに同行する支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等の意向にそって、短期や長期目標を設定して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じ、介護計画期間内でもモニタリングやカンファレンスを行い、利用者や家族の意向を確認しながら現状に即して介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による通院支援をしている。 協力医療機関の看護師による夜間帯の巡回訪問をしている。 必要に応じ家族等の宿泊を受け入れている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診できるよう職員が送迎支援をしている。 また、協力医療機関から2週間に1回往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合は、口頭で家族の意向を把握しているが、意思の確認書等の作成がないなど終末期に向けた十分な体制づくりまでには至っていない。	○	重度化した場合の方針や対応マニュアルの作成が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は接遇講習を受講し、利用者への言葉かけに配慮している。 来客時の受付簿をその都度出すなどプライバシーに配慮している。 利用者の情報提供については、利用者や家族から事前に同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝ていたい、食べたい、散歩したいなど日々利用者の意向にそって、自由に過ごせるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど利用者のできる範囲で働きかけ、職員と共に行っている。利用者の咀嚼の状態に合わせて食べやすいよう調理に工夫をしている。職員も同じ食卓でテレビや天気などを話題にしながらかし事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきの入浴になっているが、暑い日や利用者の希望にそってシャワー浴や清拭などを支援している。午前や午後を問わず利用者の希望にそって入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望にそって、カラオケや掃除機、書道・裁縫用具などを揃えている。利用者は居室に観葉植物を置き楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム敷地内の植物への水やりや近くの公園の散歩、買い物など外出の機会を多くし職員が同行支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しているが、ホームが3階に位置しているためエレベーターを利用しており、階段の出入り口は安全確保のため施錠している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練実施計画に基づき、避難訓練を年2回実施している。 消防署の指導により災害発生時は屋上避難となっており、緊急時対応マニュアルを作成している。 非常食の備蓄はなく、地域の人々の協力を得た訓練を実施するまでには至っていない。	○	災害発生時に地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議の委員や自治会などに働きかけ、地域と合同の避難訓練や非常食の備蓄、屋上に通じる階段の手すりの設置が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間献立を基本とし、協力医療機関の栄養士に栄養バランスについてアドバイスを受けている。 利用者の食事量・水分摂取量などを個別に記録し、日々の健康状態を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にテーブルや畳のコーナー、ソファを設置し利用者が好みの場所で休養できるよう配慮している。 廊下に利用者の書道、塗り絵、写真などの作品を展示し共用空間を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品であるベッドやタンス、エアコン以外のテレビや冷蔵庫、家具など利用者の好みで配置し、絵や写真などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。